

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

メロスは単純な男であった。買物を買ったまま、のそのそ王城に入っていた。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは王の前に引き出された。
 「この短剣で何をやるつもりであったか。言え。」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもって問い詰めた。
 「その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった。」

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは、**A** 答えた。
 「おまえがか？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」
 「言いな」とメロスは、**B** 反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥すべき悪徳だ。王は、民の忠誠を疑っておられる。」

「疑うのが正当の心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊だ。信じては、ならぬ。」暴君は著お着いてつおやき、ほっとため息をついた。「わしだって平和を望んでいるのだが。」
 「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。今度はメロスが嘲笑した。
 「罪のない人を殺して、何が平和だ。」
 「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人の心はわらわらの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王はひどい。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命いよいよ決してしない。ただ、——と言ひかけて、メロスは足元に視線を落とす。瞬時ためらい、私に情けをかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主をもたせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、こゝへ帰ってきます。」
 「ばかな」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないことを言つた。逃がした小鳥が帰ってくるというのか。」
 「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む、そうしてください。」
 それを聞いて王は、残虐な気持で、そとほくそ笑んだ。生意気なことを言つた。どうせ帰つてこないに決まつている。このそつきにだまされたありして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を濔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没まで帰つてこい。遅れたら、その身代わりを、さつと殺すぞ。ちよつと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」
 「なに、何をおっしゃる。」
 「はは、命が大事だつたら、遅れてこい。おまえの心は、わかっているぞ。」
 メロスは悔しく、じんだんだ踏んだ。ものも言いたくなかつた。

竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よき友とよき友は、二年ぶりで相会した。メロスは、友に一切の事情を語つた。セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱きしめた。友と友の間は、それでよかつた。セリヌンティウスは縛られた。メロスは早くに出發した。初夏、満天の星である。

問一 線部①「メロスは単純な男であった」とはどのような点ですか。次から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア すぐに激怒する点
 イ 思つた通りに行動する点
 ウ 他人を信じやすい点
 エ 他人の影響を受けやすい点

問二 線部②「王城に入つていったのは何のためですか。文章中の言葉を使って、一五字以内(句読点含む)で答えなさい。」

問三 線部③「その王の顔は蒼白で、眉間のしわは刻み込まれたように深かった」とありますが、王のどのような気持ちを読みとることが出来ますか。次から最も適当なものをを選び、記号で答えなさい。

ア 今までしてきたことを後悔して、深く反省している気持ち。
 イ 誰かに裏切られないかということだけを警戒している気持ち。
 ウ 自分は一人ぼっちだと思つて、心を痛めているという気持ち。
 エ 自分の本心をかかして、頑固になつていっているという気持ち。

問四 **A**・**B** にはあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア ためらうように
 イ いきり立つて
 ウ 悪びれず
 エ おびえるように

問五 線部A「平和だ」・B「清らかな」は形容動詞です。それぞれの活用形を漢字で答えなさい。

問六 線部④「人のほらわたの奥底」とはこのようなものです。文章から四字で抜き出して答えなさい。

問七 線部⑤「願いを聞いた」とありますが、王はなぜそうしましたか。次から最も適当なものをを選び、記号で答えなさい。

ア 人を常に疑つてかかることが正しいことだとこのことをメロスに教えるため。
 イ 人を疑うよりも信じる方がつらいことを民に知らしめるため。
 ウ これから一切、人を信じないようにしようと思つて固めることができたため。
 エ 人は信用できないというところが正しいことを証明できるため。

問八 線部⑥「おまえの心は、わかっている」とありますが、王はメロスがどうすると思つていましたか。二〇字以内(句読点含む)で答えなさい。

問九 線部⑦「セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱きしめた」とありますが、セリヌンティウスはどのような気持ちで「抱きしめた」のですか。次から最も適当なものをを選び、記号で答えなさい。

ア 信頼する気持ち
 イ 不安な気持ち
 ウ 同情する気持ち
 エ 孤独な気持ち

問十 線部⑧「初夏、満天の星である」とありますが、メロスのどのような気持ちを読みとることが出来ますか。「約束」という言葉を入れて、一五字以内(句読点含む)で答えなさい。

一	イ	三	町を	暴君	の	手	から	救	う	た	め。
二	ウ	四	私	欲	の	塊	七	エ			
三	ウ	四	イ	五	終	止	連	体			

九	ア	わ	ざ	と	遅	れ	よ	う	と	す	る	こ	と。
十		約	束	を	守	っ	て	み	せ	る	と	い	う
		決	意										

問五 10点×2
 他各8点

約 77 B C 他

